

横浜市関係

- 1 市立小学校児童音楽会始まる
- 4 「市民の市長をつくる学者・研究者の会」は、次期市長選候補者の一人として、宮島肇関東学院大学教授を推す
- 5 次期市長選で社会党内のミノ表面化
- 6 市長、五十三年度予算(案)は「三カ月の骨格的暫定」とする考えを発表
- 9 共産党県・市委員会、次期市長選、今後の市政に臨む政策「豊かな明日の横浜をめざして」(八項目)を発表
- 10 「海の公園」で新基本構想発表
- 11 「市民の市長をつくる学者・研究者の会」初めて街頭へ
- 13 市長、五十三年度骨格的暫定予算を発表(総額二、六一〇億円)するとともに「予算案を議会に提案した後、すみやかに辞任するのが適当と考える」と表明
- 14 市長選候補者選びについて、社会党市本部委員会は、「党中央、県・市本部の三役に一任する」ことを決定
- 17 細郷道一氏後援会発足。▽「市民の市長をつくる会」発足、候補者七人発表
- 18 第一二回港南区民会議開催される
- 20 社会党県・市本部執行委員会「細郷氏推せん」を了承、相乗り決定する
- 22 産賀ホールで「国際輸入見本市」始まる。▽磯子のマンションでガス爆発
- 23 社会党「細郷氏推せん」を正式決定

自治体・国・社会

- 1 国鉄寒波に降参。2 主任制反対で神教協がスト権確立。▽京都府知事選で、山田芳治社会党代議士が初名乗り。3 五十三年度地方財政計画閣議了承。4 五十二年県下における現金拾得額六億五千万円、届出額一億九千万円。6 五十一年度県民所得推計(連報)によると総生産は名目一〇兆六、二四九億円で対前年度比一四・一%増。▽成田第二要さい制圧。▽小糸源太郎画伯死去(90才)。7 伊豆大島近海地震の余震活動終息宣言。8 県総合開発審議会の「新神奈川計画」を答申。9 川崎市障害者授産推進委員会が障害者社会参加の在り方について中間提言。▽寒川町議とばく開帳事件で三町議辞任。10 県知事、五十三年度当初予算案を発表。総額八、〇九五億八千万円で前年度当初比一一・九%増。11 米空軍戦闘機F-15八機が沖繩に初飛来。▽建国記念の日、初めて政府後援の式典実施。12 滋賀県で中学生二人が同級生三人を殺傷。14 県、「新神奈川計画」を正式策定。16 太田薫合化労連委員長、米春の都知事選へ出馬表明。17 神教協が第一波二時間スト。18 李家孝氏(横浜商工会議所元会長)死去(82才)。20 永大産業倒産。23 経企庁、「第二次輸入品価

横浜市関係

- 24 本市の「米軍ジェット機墜落事故対策本部」解散、今後は担当部局が処理
- 25 市会決算特別委員会、五十一年度一般会計・特別会計(一五)の決算を認定
- 27 市長、市会議長に辞表提出。▽ピエリオン市長、飛鳥田市長を表敬訪問
- 28 京急の釜利谷開発を許可(総面積三一ha・開発面積一八〇ha・宅地四〇%)
- 1 ハイフォン市代表団、飛鳥田市長を表敬訪問。▽飛鳥田市長辞任。お別れ記者会見で「革新市政は今後も守られる」「市民参加の自治は市民が生み出す」という第二段階に入った」と語り
- 2 市長選に金子駿介元県議が出馬表明
- ▽市長選日程決まる(三月二十七日告示・四月十六日投票)。▽山下公園前の高層ビル計画に、住民三五人が行政訴訟。▽野庭団地新棟建設に関して、団地住民一六人が建築禁止の仮処分を申請
- 6 「市公共事業施行推進本部」を設置
- 7 首都高速横羽線延伸区間と高速神奈川2号三ツ沢線(延長六・二km)が開通
- 9 「市民の市長をつくる会」朝倉了氏を候補者に内定。▽「釜利谷開発による環境破壊から住民を守る会」などが、先の京急に対する県・市の許可に抗議
- 11 細郷氏、市政に関する基本的な考え

自治体・国・社会

- 1 横浜駅西口再開発ビル計画に関して、土地所有者らが行政訴訟提起。▽飛鳥田委員長の信任率は八・四%(社党委員長公選)。▽岡潔氏(数学者)死去(76才)。2 県、京急釜利谷開発に森林法の許可。4 蜷川京都市知事八選不出馬を表明。5 京都府知事選に杉村敏正京大教授が出馬表明。▽中国全人大閉幕。▽東久邇聡子さん死去(81才)。6 神奈川スモン訴訟第四回口頭弁論。7 五十三年度予算案衆院を通過。▽神奈川スモン原告団に初の犠牲者(豊崎寛さん・59才)。8 小田原市で競輪場清掃委託汚職、課長ら四人逮捕。9 円急騰、東京外為でドル二二三円台の新高値。10 カネミ油症訴訟で原告側勝訴(福岡地裁)。11 プレスチナ解放機構(PLO)のゲリラ、イスラエルを襲撃(三人死亡・八二人負傷)。12

4月

- 方(三本柱)と政策大綱を発表
- 12―市長選に「市民の市長をつくる会」から朝倉了氏が出馬表明
- 14―共産党朝倉氏支持を声明
- 15―「市民の市長をつくる会」、市政の当面の緊急・重点政策と政策大綱を発表
- 16―在日韓国・朝鮮人が、市の教育施策を巡って市側と初の団体交渉を行う
- 17―革新自由連合、朝倉氏支持を表明
- 18―金子駿介氏、選挙政策「よみがえる横浜」(四項目)を発表。▽「市長と市民の会」理事会で「会」の存続を決定
- 21―「クイーンエリザベスII」横浜寄港
- 23―細郷氏「市政への私の政策提言」発表
- 27―市長選告示。二〇日間の選挙戦開始
- 29―上海市友好訪問団、市を表敬訪問
- 30―市民の目委員会「望ましい都市美化の在り方」について答申。▽横浜大洋、馬車道・伊勢佐木町をパレード
- 31―コレラ菌、鶴見川河口で検出される
- 1―「鶴見川コレラ対策本部」を設置
- 4―四候補による鶴見市議補選スタート
- ▽横浜スタジアムの球場開きに三万人、飛鳥田前市長が始球式
- 5―市長選立会演説会開始。▽市内小・中学校で入学式、新小学生五万六一〇人
- 6―旭区に米軍機の尾翼の一部が落下
- 7―市、米軍機の部品落下事故で政府・米軍司令官に嚴重抗議

- フランス総選挙第一回投票。15
- ―横浜新貨物線で県取用委の現地立ち入り調査に反対同盟抵抗。
- 16―公立歩合〇・七五%下げ、年三・五%に。▽モロ氏(伊前首相)誘かいされる。17―ドル〇二〇〇円(東京外為)。
- 20―フランス総選挙第二回投票、与党勝利確定。23―横須賀市、追浜地先の日産理立を許可。24―カナメ油症刑事裁判で、工場長に禁固一年六ヶ月、社長無罪(福岡地裁)。
- 25―ビルマのラングーンでビルマ航空機墜落、四人全員死亡(日本人六人)。
- 26―過激派ケリラ、成田空港管制塔を占拠・破壊。27―「ル」二二五円台(東京外為)。
- 28―県教委、主任制四月一日強行を断念。29―官房長官、成田保安に新立法を示唆。▽ドル〇二二〇円台。30―春闘、三百組合六〇万人が統一スト。
- 1―プロ野球開幕、横浜大洋快調なスタート。3―尾上松緑氏脱税発覚。▽ドル〇二一八円一五銭。▽平野謙氏死去(70才)。
- 4―五十三年度政府予算成立。
- 5―東京都、五十二年度期末手当と勤勉手当支給を決定。▽小田原市、清掃汚職で職員三人を懲戒免職。6―ヴァンチャケツト倒産。7―南足柄市宅造工事汚職で職員逮捕。8―県取用委、

- 9―今年度の「ミス横浜」五人が選出
- 11―市長選立会演説会終了
- 13―米軍司令官部品落下事故で市に陳謝
- 15―コレラ汚染源、鷺沼の医院の浄化槽
- 16―市長選投票日。投票率三六・〇八%
- 鶴見区市議補選投票率は四〇・六四%
- 17―新市長に細郷道一氏。得票数約三万票で朝倉氏に七万票差。▽細郷新市長記者会見で「批判票が多かったことは厳粛な事実として受けとめたい」「五十三年度予算では景気対策に重点をおく」「革新市長会には入らない」などと語る。
- ▽鶴見区市議補選は岩下正義正氏(社党)
- 19―細郷新市長初登庁。「本年度予算編成を急ぎ、公共投資に重点を」「人事・機構は急がない」「公共料金値上げありうる」などと語り、「ヒューマンな横浜の実現を」と市民へのメッセージも発表
- 20―市教委「本年度一次分として、五小学校と一八プールを新設予定」と発表
- 21―細郷市長、県庁に長洲知事を訪問
- 22―細郷市長、臨時市会で「市政遂行に全力をつくす」と就任のあいさつ
- 24―臨時市会終る
- 25―測量委託契約汚職で市職員三人逮捕
- 26―測量汚職で市長、臨時局区長(会議を開き「再発防止を徹底せよ」と訓示
- 27―市会第二委員会で「神奈川劇場再開反対の陳情審査」が行われたが結論でず
- 30―「大佛次郎記念館」開館式

- 横浜新貨物線用地問題の審理を打ち切る。10―京都府知事に林田悠紀夫氏(九日投票)。
- ▽私鉄大手第一、次回答。▽東京湾岸道路計画で、県下住民団体が行政訴訟。11―自民党、「成田新立法」の骨子を発表。▽東京都、勤勉手当支給を撤回。12―尖閣列島で中国漁船が領海侵犯。13―鉄鋼大手・自動車回答。▽国土利用県計画(素案)まとまる。
- ▽東京・新宿の「火曜日の放火魔」犯人に懲役一〇年。16―シエール西独大統領来日。17―三公社五現業回答。18―県教委、「主任制」で規則と基準の改正を公布。19―公労協第二波スト。
- 20―日ソ「サケ・マス」交渉決着。21―大韓航空機ソ連に強制着陸、二人死亡・二人負傷。25―交通セネスト突入、私鉄は午後から収拾。▽伊方原発訴訟で住民側敗訴。▽東郷青児氏死去(80才)。26―公労協スト収拾。
- ▽福田内閣不支持率五七・九%に。28―「宮本身分帳事件」で鬼頭被告に無罪。▽川崎市、環境アセスメント条例適用第一号。▽春の叙勲に三、九二八人。▽米国務省、「一九五一年の米国の対外関係文書」を公表。▽岡鹿之助氏死去(79才)。29―安田鞆彦氏死去(94才)。30―福田首相米国へ出発。

資料は「広報よこはま」によったほか、主として神奈川新聞を参考にした。* 印は日付不確定のため新聞発行日。